

# 母性看護学実習

## 1 目的

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護ができる能力を養う。

## 2 目標

- 1) 妊産褥婦および新生児の特徴を理解し、対象に合わせた基本的援助が理解できる。
- 2) 妊娠・分娩・産褥期における母子相互作用について理解を深め、円滑な形成へ向けて関わることができる。
- 3) 母性を取りまく地域の保健・医療・福祉と諸機関との連携について理解を深めることができる。

## 3 実習内訳

内 容	時 間	単位・合計時間
妊婦の看護 産婦の看護 褥婦の看護 新生児の看護	80 時間	2 単位 90 時間
実践活動外学習	10 時間	

### 実践活動外学習の内訳

項 目	目 的	内 容	時 間
フローアオリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解し、実習病棟や実習の進め方の情報を得る。	病院や病棟の概要、対象の特徴、実習の進め方、実習記録、実習時の注意	2 時間
地域看護とウェルネス思考	①母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の状況を理解する。 ②ウェルネス思考について理解を深める。	・地域の保健・医療・福祉の状況を文献で調べ共有する。 ・ウェルネス思考について文献で調べ共有する。	8 時間
合 計			10 時間

#### 4 学習の目標・内容・方法

##### 1) 妊婦看護

行動目標	内 容	方 法
1 妊娠に伴って生じる身体的変化、胎児の発育状態、心理・社会的変化について情報収集できる	1 身体的側面 1) 妊娠週数 2) 検査・治療 3) 既往歴、既往妊娠・分娩歴 4) マイナートラブルの状態 5) 胎児の発育状態・健康状態	行動目標 1~3 について ※産婦人科外来・助産師外来で実習する。 1 妊婦健康診査の実際を、一部援助を通して学ぶ。 2 カルテ、母子健康手帳から情報をとり妊婦健診の実際を行う。 3 診察・指導時の妊婦の反応などから、より順調な経過を目指した看護について考える。 4 診察開始前に学生同士で内診台への誘導を行い実際に乗って、診察を受ける妊婦の心理や誘導の方法を考え実際場面に活かす。 5 レオポルド診察法は 37 週以降の妊婦で実施する。
2 妊婦の健康診査が理解できる	1 妊婦健康診査の実際 1) 妊婦の観察と諸計測 (1) 診察の準備 (2) 尿検査 (3) 子宮底長の測定 (4) 腹囲測定 (5) 児心音測定 (6) レオポルド触診法 (7) 診察介助 (8) 検査介助	
3 妊婦の妊娠経過及び妊婦の健康生活について解釈・分析できる	1 妊娠経過及び健康生活 1) 心理面 (1) 妊娠・分娩・育児に対する考え (2) 家族・配偶者の妊娠の受容 2) 社会的側面 (1) 発達課題 (2) 社会的背景 (3) 知的能力 (4) 基本的生活習慣 (5) 職業の調整	
4 妊娠各期に応じた保健指導の内容と方法が理解できる	1 保健指導の内容 1) 妊婦健康診査の必要性和諸届け 2) マイナートラブルについて 3) 生活指導、栄養指導 4) 合併症予防 5) 分娩へ向けた指導	行動目標 4 について ※保健指導は見学とする。 1 保健指導は、次の視点をもって見学する。 ① 対象把握 ② 指導の実際 ③ 場面の設定 ④ 教材 ⑤ 話し方 ⑥ 妊婦の反応 2 保健指導を見学した妊婦のカルテから情報収集し妊娠経過を解釈・分析する。 3 悪阻、妊娠高血圧症候群、骨盤位、貧血の指導など機会があれば見学する。

2) 産婦看護

行動目標	内 容	方 法
<p>1 入院時の産婦の観察と援助が理解できる</p> <p>2 分娩Ⅰ期・Ⅱ期の進行状態の観察と援助が理解できる</p> <p>3 分娩Ⅲ期の観察と援助が理解できる</p> <p>4 分娩後Ⅳ期の観察と援助が理解できる</p>	<p>1 入院時の観察と産婦の状態把握</p> <p>1) 分娩進行状態</p> <p>2) 胎児の健康状態</p> <p>3) 妊娠中の異常の有無</p> <p>4) 産婦の身体的、心理的状态</p> <p>2 入院時の産婦への援助</p> <p>1) 診察時の援助</p> <p>2) 入院時オリエンテーション</p> <p>1 分娩Ⅰ期・Ⅱ期の観察</p> <p>1) 分娩の進行状態</p> <p>2) 産婦の身体的・心理的状态</p> <p>3) 胎児の状態</p> <p>4) 分娩機転と胎児の分娩様式</p> <p>5) 胎児娩出時刻</p> <p>2 分娩Ⅰ期・Ⅱ期の援助</p> <p>1) 呼吸法、怒責</p> <p>2) 産痛の緩和</p> <p>3) 精神的慰安</p> <p>4) 栄養、水分補給</p> <p>5) 排泄の誘導</p> <p>6) 安楽な体位</p> <p>1 分娩Ⅲ期の観察</p> <p>1) 胎盤の剥離徴候、娩出様式、娩出時刻</p> <p>2) 胎盤娩出後の子宮収縮の状態</p> <p>3) 胎盤の観察と計測</p> <p>2 分娩第Ⅲ期の援助</p> <p>1) 子宮収縮促進</p> <p>2) 労いと安らぎの声かけ</p> <p>1 分娩後 1 時間・2 時間の観察</p> <p>1) 一般状態</p> <p>2) 子宮収縮状態(位置・硬度・出血状態)、後陣痛の有無</p> <p>3) 軟産道、外陰部、肛門部の損傷の有無</p> <p>4) 疲労、心理状態</p> <p>2 分娩後 1 時間・2 時間の援助</p> <p>1) 子宮収縮促進、自尿の促進</p> <p>2) 清拭・更衣</p> <p>3) 疲労回復</p> <p>4) 帰室時のオリエンテーション</p>	<p>行動目標 1~4 について</p> <p>※分娩室で実習する。</p> <p>1 産婦を 1 名受け持ち、援助を行う。</p> <p>2 行動計画の発表は、実習目標と分娩各期の看護のポイントを中心に、担当助産師に発表する。</p> <p>3 分娩の経過は、パルトグラムや分娩経過記録の記載事項を確認し学ぶ。</p> <p>4 指導者とともに陣痛測定、児心音聴取を行い分娩進行状態を考える。</p> <p>5 排泄の援助は分娩進行の可能性があるため、必ず指導者へ報告し確認を受けてから実施する。</p> <p>6 異常分娩の場合は、可能であれば見学し学ぶ。(帝王切開術、骨盤位分娩吸引、鉗子分娩、等)</p> <p>7 胎盤計測を実施する。</p> <p>8 分娩後 1 時間・2 時間の看護は、指導のもとで実施し学ぶ。</p> <p>※産婦がいないときは、分娩のシミュレーションを行うなどして学ぶ。</p> <p>1 分娩監視装置の装着、データ解釈</p> <p>2 呼吸法、補助動作</p> <p>3 産痛緩和法</p> <p>4 分娩台の操作及び安楽で怒責し易い体位</p> <p>5 分娩記録からの学習など</p>

### 3) 褥婦看護

行動目標	内 容	方 法
<p>1 褥婦の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる</p> <p>2 産褥経過が情報収集・解釈・分析できる</p> <p>3 復古状態の観察と復古促進の援助ができる</p>	<p>1 産褥の身体的特徴</p> <p>1) 退行性変化</p> <p>2) 進行性変化</p> <p>2 母性成熟期の心理・社会的特徴</p> <p>1) 母親としてのアイデンティティの確立</p> <p>2) 母子関係の確立</p> <p>3) 発達課題</p> <p>4) 自然環境、住居環境、人間関係</p> <p>1 妊娠経過</p> <p>2 分娩経過</p> <p>3 全身の復古状態</p> <p>1) 生殖器の復古</p> <p>2) 生殖器の復古を妨げる要因</p> <p>3) 全身の生理的变化</p> <p>4) 全身の回復状態及び回復を妨げる要因</p> <p>5) 褥婦の心理状態</p> <p>6) 不快症状や兆候の有無</p> <p>4 乳房の変化</p> <p>1) 産褥日数に応じた乳房の変化</p> <p>2) 産褥日数に応じた乳汁分泌</p> <p>3) 乳汁分泌に影響を与える因子</p> <p>4) 乳房・乳頭異常の有無</p> <p>5) 合併症の可能性の有無</p> <p>6) 乳房緊満乳管開通に伴う苦痛</p> <p>7) 直接授乳の状態</p> <p>5 自己管理の状態</p> <p>1) 産褥に関する知識の有無</p> <p>2) 産褥乳房に対する自己管理能力</p> <p>3) 産褥期の復古を促進するための自己管理能力</p> <p>6 母親としての成長と母子関係</p> <p>1) 母親役割の受入れ</p> <p>2) ボディイメージの受入れ</p> <p>3) 母親としての役割行動</p> <p>4) 家族関係の調整状態</p> <p>5) 愛着形成</p> <p>6) 愛着形成を妨げる因子の有無</p> <p>7) サポートシステムの状態</p> <p>1 日常生活への援助</p> <p>1) 清潔（身体、外陰部）</p> <p>2) 食事</p> <p>3) 活動と休息</p> <p>4) 早期離床</p> <p>5) 排泄</p>	<p>行動目標 1～4 について</p> <p>※褥室で実習する。</p> <p>1 褥婦を 1 名受け持ち、援助する。</p> <p>2 できれば産褥早期の褥婦を選択して実習する。</p> <p>3 受持ちについてケースカンファレンスを実施し、助言を基に援助の方向性を決定する。</p> <p>4 マタニティ診断を活用し、援助計画を立案し、実践・評価する。</p> <p>5 母子一体でとらえて看護するため新生児の状態も情報収集する。</p> <p>6 複数の学生が同一母子を受け持った場合は、褥婦の負担にならないように役割調整・情報交換し、実習を進める。</p>

行動目標	内 容	方 法
<p>4 褥婦の育児行動を観察し、母乳栄養・母子関係確立への援助ができる</p> <p>5 褥婦に必要な保健指導を理解し、支援的関わりができる</p> <p>6 母児の生活を継続して援助するために、地域社会や地域関連機関との連携の必要性を理解できる</p>	<p>2 子宮収縮促進の援助</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 輪状マッサージ</li> <li>2) 授乳や排泄との関係</li> <li>3) 子宮収縮剤との関係</li> <li>4) 産褥体操</li> </ol> <p>1 母乳栄養促進への援助</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳房の清潔</li> <li>2) 直接授乳</li> <li>3) 乳管開通促進</li> <li>4) 乳汁分泌促進</li> </ol> <p>2 母子関係確立への援助</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 褥婦の児への関心度の観察</li> <li>2) 育児指導（環境の調整、児の観察点、栄養、清潔、危険防止、感染予防）</li> </ol> <p>1 退院までに行われる保健指導</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 集団指導 初回授乳・育児指導、母子同室指導、沐浴指導、調乳指導 退院後の生活指導、家族計画指導</li> <li>2) 個人指導</li> </ol> <p>1 地域社会、関連機関との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出生届け</li> <li>2) 母子健康手帳の活用（退院時の記入内容、褥婦への説明）</li> <li>3) 保健所等の関連機関への連携</li> </ol>	<p>行動目標 5 について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 集団指導を見学する場合は事前学習をし、行動計画に見学の目的・見学内容・実施結果・評価を記入する。</li> <li>2 個人指導は、前日までに教員及び指導者へ相談し助言を受け、指導者または教員の同席のもとに実施する。</li> <li>3 出生届の手続き及び母子健康手帳の活用方法についての説明を見学する。</li> </ol> <p>行動目標 6 について</p> <p>学内にて1日、地域看護とウェルネス思考について学ぶ。</p>

#### 4) 新生児看護

行動目標	内 容	方 法
<p>1 新生児の健康状態に影響を及ぼす因子について理解できる</p> <p>2 出生直後の新生児の観察と援助ができる</p> <p>3 新生児の日齢に応じた生理的变化を観察し、健康状態について解釈・分析できる</p> <p>4 胎外生活への適応を促進するための援助ができる</p>	<p>1 妊娠中の母体の健康状態</p> <p>1) 在胎週数</p> <p>2) 分娩所要時間</p> <p>3) 分娩様式</p> <p>4) 感染徴候（破水・母体発熱）</p> <p>5) 胎児心音の状態（胎児機能不全の有無）</p> <p>6) 分娩外傷の有無</p> <p>2 出生直後の新生児の観察</p> <p>1) アプガールスコアの採点</p> <p>2) 全身の観察と計測</p> <p>2 出生直後の新生児の援助</p> <p>1) 新生児の呼吸を促す方法（顔面清拭、体位、羊水吸引）</p> <p>2) 母児標識装着</p> <p>3) 点眼</p> <p>4) 保温</p> <p>5) 臍処置</p> <p>6) 母子相互作用を促す方法</p> <p>7) 新生児室入室時の連絡内容</p> <p>3 早期新生児の観察</p> <p>1) バイタルサインズ</p> <p>2) 生理的变化</p> <p>3) 原始反射</p> <p>4) 体重の増減</p> <p>5) 哺乳状態</p> <p>6) 身体計測</p> <p>1 早期新生児への援助</p> <p>1) 新生児の状態に合った環境の調整（室温・湿度、衣類、寝具）</p> <p>2) 排泄（おむつ交換）</p> <p>3) 清潔（沐浴、清拭、寝衣交換）</p> <p>4) 栄養（母乳栄養、人工栄養、初回授乳時の注意、児の抱き方、排気の仕方など）</p> <p>5) 診察、検査、治療を受ける児への援助（診察時の体位・固定、採血、先天代謝異常検査、K<sub>2</sub>シロップ与薬、X-P、尿検査、光線療法など）</p> <p>6) 安全への配慮（抱き方、寝かせ方、着物の着脱、おむつ交換、移送法、体位変換、誘拐防止、熱傷防止、転落防止 など）</p> <p>7) 感染予防（ガウンテクニック、手洗い、面会の制限など）</p> <p>8) 愛護</p>	<p>行動目標 1~4 について</p> <p>※新生児室・褥室で実習する。</p> <p>1 新生児を1名受け持ち援助する。</p> <p>2 出生直後の新生児の看護は、分娩室または新生児室で見学する。</p> <p>3 成熟徴候を観察する。</p> <p>4 母子一体でとらえて看護するため新生児の状態も情報収集する。</p> <p>5 複数の学生が同一母子を受け持った場合は、褥婦の負担にならないように役割調整・情報交換し、実習を進める。</p> <p>6 援助時は常に安全な方法を考えて指導の基に実践する。</p> <p>7 児を移動するときは、必ずコットで移送する。</p> <p>8 自己の健康管理に留意する。</p>

## 5 実習まとめ

### 1) 実習時間内でのまとめ

- (1) 共通書式「実習を振り返って ―自己の学びと今後の課題―」を使用する。
- (2) まとめる視点として、以下の項目を含める。
  - ①妊娠・分娩・産褥・新生児看護を通しての学び
  - ②自己の母性観（父性観）について考えたこと

### 2) 実践活動時間外学習内でのまとめ

- (1)母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の状況を理解する。
- (2)ウエルネス思考について理解を深める。

## 6 その他

1) 実習実施計画表は、実習施設の資料を参考にして計画する。

### 2) カンファレンス テーマ例

- |       |  |
|-------|--|
| 妊婦の看護 | ○産科外来における看護師の役割とは<br>○効果的な保健指導について   |
| 産婦看護  | ○主体的に分娩にのぞむために必要な援助とは<br>○生命の誕生に関わる看護師に求められること   |
| 褥婦の看護 | ○受持ち褥婦の問題点と看護の方向性<br>○母子関係確立のために大切な関わりについて<br>○母乳栄養促進へ向けた援助について<br>○家族の役割適応に向けて必要なサポートとは |
| 新生児看護 | ○児の安全を確保した援助へ向けて必要なこと<br>○母児同室制・異室制の利点・欠点と看護<br>○高ビリルビン血症予防に向けて重要な看護                     |

## 7 実習内容に関する規定

	必ず臨床指導者の指導のもとで指導を受けながら実施すべき援助	臨床指導者の確認を受け、許可があれば一人で実施してよい援助
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子関係、家族関係などに関する質問への対応</li> <li>・保健指導</li> <li>・内服薬、外用薬の準備と実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人のバイタルサインの観察</li> </ul>
妊婦看護 産婦看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内診の介助</li> <li>・検尿（尿蛋白、血糖）</li> <li>・児心音聴取</li> <li>・腹囲、子宮底測定</li> <li>・分娩監視装置の装着</li> <li>・レオポルド触診法</li> <li>・分泌物の性状観察</li> <li>・破水時の援助</li> <li>・産婦の排泄誘導</li> <li>・分娩直後の観察・パット交換</li> <li>・分娩時の清拭及び更衣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陣痛測定</li> <li>・呼吸法及び補助動作の援助</li> <li>・分娩時の水分補給</li> <li>・胎盤の観察</li> </ul>

褥婦看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診察介助</li> <li>・乳房の観察、乳頭・乳輪部マッサージ</li> <li>・直接授乳の介助</li> </ul>	・直接授乳の観察
新生児看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アプガールスコアの採点</li> <li>・出生直後の観察・計測</li> <li>・出生直後の点眼</li> <li>・診察時の介助</li> <li>・全身状態の観察</li> <li>・黄疸計での計測</li> <li>・コットの移送</li> <li>・児を抱く</li> <li>・オムツ交換</li> <li>・沐浴、臍処置</li> <li>・ビン哺乳</li> <li>・光線療法中の児の看護</li> <li>・新生児の計測</li> </ul>	

\* その他の技術については、母性看護実習では見学を中心にして学ぶ。

## 8 母性看護学実習：事前学習内容

1) 下記項目を参考に授業資料を整理しインデックスを付ける。いつでも活用できるように準備しておく。

<外来>	<産褥>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦健康診査－目的、時期、回数</li> <li>・妊娠週数の数え方</li> <li>・分娩予定日の算出法</li> <li>・内診および外診の目的、方法、援助方法</li> <li>・血液検査 ・感染症（血液検査、臍培養）</li> <li>・妊娠の徴候 ・妊娠反応の種類</li> <li>・超音波画像診断・胎位・胎向・胎勢について</li> <li>・妊娠による全身的变化・精神的变化</li> <li>・子宮底の高さの変化、腹囲の変化、測定方法</li> <li>・NST装着・レオポルド触診法－目的・方法</li> <li>・留意点 ・児心音聴取方法、正常値、異常</li> <li>・母子健康手帳の意義及び活用方法</li> <li>・妊娠各期の保健指導項目及び内容</li> <li>・妊娠期のマイナートラブルとその対処方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪露及び子宮収縮状態の経日変化</li> <li>・乳房の観察点と判断基準</li> <li>・乳汁分泌の機序、経日変化</li> <li>・初乳と成乳、母乳栄養の利点</li> <li>・褥婦の全身の変化、悪露交換</li> <li>・褥婦の生活（清潔、食事、休息と運動、早期離床）</li> <li>・乳房の手当て、乳房マッサージ（搾乳含む）</li> <li>・産褥体操－目的、留意点、実際</li> <li>・保健指導</li> </ul>
<分娩室>	<新生児>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩各期の定義、看護</li> <li>・陣痛、血性分泌、破水について</li> <li>・分娩監視装置（NST含む）</li> <li>・呼吸法 弛緩法 補助動作</li> <li>・入院に必要な問診</li> <li>・会陰保護の目的</li> <li>・排臨、発露について</li> <li>・胎児産道通過の機序</li> <li>・アプガールスコアの評価</li> <li>・胎盤剥離の徴候</li> <li>・胎盤の娩出機序</li> <li>・胎盤の観察、計測</li> <li>・帰室時の看護、指導方法</li> <li>・帝王切開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児機能不全</li> <li>・産瘤と頭血腫</li> <li>・出生直後の観察、計測</li> <li>・新生児の生理</li> <li>・成熟度の判定</li> <li>・全身状態の観察点</li> <li>・保育環境</li> <li>・黄疸（光線療法含む）</li> <li>・先天性代謝異常</li> <li>・児に必要なカロリー計算</li> <li>・ビタミンKの与薬</li> </ul>

- 2) 以下の薬剤については薬理作用を調べておく。
- (1)注射薬：HCG・ウテメリン・マグセント・アトニンO・プロスタルモンF・メテルギン・フェジン・ビクシリン・セファメジン
  - (2)内服薬：K2シロップ・メテナリン・ロキソニン・ラキソベロン・フロモックス・ケフレックス・クラビット・フェルム・フェロミア・カロナール・ボルタレン
  - (3)点眼薬：エコリシン
  - (4)座薬：プロクトセディル・ボルタレン・シェリプロクト・強力ポステリザン
  - (5)その他：ヨードホルムガーゼ・メトロイリーゼ・ラミナリア
- 3) 腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、新生児の観察と沐浴については、実習初日から必要となるためフロアオリエンテーション終了後、練習して臨む。特に沐浴は、新生児の安全が守れるよう十分練習する。
- 4) 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に関するVTRを見て、イメージをつける。
- (1)妊婦の看護：在胎週数とアセスメント
  - (2)産婦の看護：新しい家族誕生への支援・NST分娩胎児心拍数モニタリング
  - (3)褥婦の看護：褥婦のアセスメントとケア・母乳マッサージ・産後の生活と心得
  - (4)新生児の看護：新生児のフィジカルアセスメント・新生児のアセスメントとケア

# 精神看護学実習

## 1 目的

精神に障がいをもつ人を理解し、障がいの段階にあわせた看護ができる基礎的能力を養う

## 2 目標

- 1) 精神に障がいをもち入院している人の治療的環境と看護師の役割を理解できる
- 2) 精神に障がいをもち入院している人を理解し、必要な援助を実践できる
- 3) 精神に障がいをもち地域で生活している人に必要な支援を理解できる
- 4) 精神保健医療福祉の課題を考えることができる
- 5) 精神に障がいをもつ人との関わりを通して、自己の内面の変化に気づき自己洞察ができる

## 3. 実習内訳

内 容	時 間	単位 合計時間
精神に障害をもち入院している人の看護	64 時間	2 単位 90 時間)
精神に障害をもち地域で生活している人の看護	16 時間	
実践活動外学習	10 時間	

### 実践活動外学習の内訳

項 目	目 的	内 容	時間数
フロアオリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解し、実習施設や患者情報を知る	1) 実習の目的、目標、時間数、実習施設の概要 2) 実習病棟の特徴、実習時の留意点等	2 時間
入院している人との看護師の関わり及び地域で生活している人のサポートシステムと課題	1. 就労継続支援施設等の特徴と精神疾患に関連した社会資源について理解する  2. 事例をもとに、精神症状に応じた看護を理解する  3. 事例を基に退院支援について考え、継続看護の必要性について理解する	1) 実習施設の特徴 ①施設の目的・運営 ②通所者の特徴 2) 地域で生活する精神障がいのある人に関連した社会資源 ①通所者が利用しているサポートシステム ②精神障がいのある人が利用できる社会資源  1) 精神症状に応じた看護 ①患者に現れている症状と日常生活への影響 ②患者への介入すべきポイント ③特徴的な精神症状に対する看護  1) 病院から地域社会へ (DVD を活用) 2) 事例を基に退院支援を考える	8 時間
合計			10 時間

#### 4 学習の目標・内容・方法

##### 1) 精神に障がいをもち入院している人の看護

行動目標	内 容	方 法
1 受け持ち患者の治療的環境を述べられる	1 精神科病院、病棟の特徴 1) 病院の施設、環境 2) 病棟の構造、設備 3) 保護室の環境 4) 鍵の管理 2 精神保健指定医 3 入院形態 4 リスクマネジメント 1) 自殺、自殺企図      2) 攻撃的行動 3) 転倒      4) 誤飲      5) 誤薬      6) 離院 5 処遇 1) 隔離、拘束      2) 通信、面会 3) 外出、外泊 6 代理行為 1) 私物の管理(金銭・煙草・おやつ等) 2) 日用品の購入	行動目標 1 について 1 実習初日にオリエンテーションを受ける 2 最終日、合同カンファレンスにて病棟による違いを情報交換し、学びを共有する 1) 探究心を持ち、事前学習を活かすようにする 2) 病棟の特徴(構造、症状など)に関心を寄せる 3) 転倒、暴力、離院などの安全をふまえた対応を行う(リスクマネジメントができる)
2 患者－看護師関係の成立発展について述べられる	1 看護師の役割 1) 日常生活の援助者      2) 相談者 3) ロールモデル      4) 家族への援助 5) 環境調整      6) 病棟運営 7) 医療チーム間の調整 2 患者－看護師関係の展開	行動目標 2～5 について 1 受け持ち以外の患者ともコミュニケーションをとる 2 患者を受け持ち、看護過程の展開を行う 3 患者の自己決定を支援する 1) 社会復帰に向けた必要な看護を判断する 2) その人らしい生活を考えた関わりを考える 3) 受け持ち患者を決定し、患者の言動・患者の生活背景や思いに関心を寄せる 4) 患者・医療従事者・教員を尊重した態度で関わる 5) カンファレンスや日々の行動を振り返り、実践する
3 患者を尊重し適切なコミュニケーションをとることができる	1 傾聴、共感、受容 1) 患者に関心を寄せる 2) 患者の言動をあるがままに受け止める 3) 患者の言動の意味を考える 2 患者の尊重 1) 人権への配慮 2) 自己決定の尊重 3 言語的・非言語的コミュニケーション技術の活用 4 患者との距離の取り方 5 精神症状の観察と対応 1) 幻覚妄想状態 2) 不安緊張状態 3) 抑うつ状態      4) 躁状態 5) 拒絶症状      6) 意欲減退 7) 強迫症状      8) 意識変容 9) 睡眠障害      10) 攻撃的行動 11) 操作・試し行為 12) 昏迷 13) 離脱症状 14) 知的機能の障害	①患者との意図的なコミュニケーションを行う ②看護師やスタッフと一緒に日常生活援助や活動を行う 6) 患者個別性に合わせた日常生活に影響を及ぼしていることや強みを活かした関わりを考える 7) 活用できる社会資源をふまえ、地域での生活に必要な他職種(OT・精

行動目標	内 容	方 法
<p>4 受け持ち患者・家族の状況及び必要な援助をアセスメントできる</p> <p>5 受け持ち患者に必要な援助を実践できる</p>	<p>1 成育歴、生活歴、現病歴、家族歴の把握</p> <p>2 精神症状が日常生活行動や身体に及ぼす影響</p> <p>3 病識、現在の状況の受け止め・将来への希望</p> <p>4 受けている治療・看護</p> <p>5 セルフケアレベル</p> <p>6 一日の過ごし方</p> <p>7 患者に必要な日常生活の援助</p> <p>8 家族の患者の受け止め方、サポート体制、ケースワーカー、精神保健福祉士</p> <p>1 セルフケアの維持、向上に向けた援助</p> <p>1) 食事</p> <p>2) 排泄</p> <p>3) 清潔・整理整頓</p> <p>4) 活動と休息</p> <p>5) 対人関係</p> <p>6) 安全を保つ</p> <p>2 治療と援助</p> <p>1) 薬物療法</p> <p>(1) 与薬方法・留意点</p> <p>(2) 副作用の観察</p> <p>(3) 服薬自己管理指導</p> <p>2) 作業療法</p> <p>3) レクリエーション療法</p> <p>4) 精神療法（個人・集団）</p> <p>5) 認知行動療法</p> <p>3 退院に向けた援助</p> <p>1) 必要な退院後の生活支援</p> <p>(1) 長期入院患者の退院支援</p> <p>2) 活用できる社会資源</p> <p>3) 可能な社会参加の形</p>	<p>神保健福祉士など）との連携を理解する</p> <p>8) 精神症状や身体症状に応じたコミュニケーション・日常生活ケア・活動を行う</p> <p>9) 健康な部分（強み）を維持、強化することや希望をふまえ、個別性のある関わりを行う</p> <p>10) 他職種との連携や再発予防に向けた支援を行う</p> <p>11) 自己理解・他者理解から対象に応じた社会資源を見いだす</p>
<p>6 再構成を通して自己洞察できる</p>	<p>1 場面の選択</p> <p>2 考察</p> <p>1) 患者の言動の理解を深める</p> <p>2) 自己の感情、行動傾向に気づく</p> <p>3) 患者への関わり方を考える</p>	<p>行動目標 6 について</p> <p>1・2 場面の再構成を記述する</p>

2) 精神に障がいをもち地域で生活している人の看護

行動目標	内 容	方 法
1 施設の役割・機能が述べられる	1 施設の目的、運営 2 作業内容 3 一日の流れ、週間予定 4 職員の役割 5 他職種、他施設との連携 6 地域との関わり	行動目標 1 について 1 実習初日に、オリエンテーションを受け、2 日間の予定を確認する。
2 利用者の特徴を述べられる	1 利用者の利用目的・就労や将来への展望 2 利用者の作業への取り組み状況 3 職員や他のメンバーとのコミュニケーションの取り方 4 生活する上で困っていること 1) 精神症状、病識 2) 受診、服薬の状況 3) 家族や地域住民との関係 4) セルフケア 5) 経済状況 6) 偏見・差別・スティグマ	行動目標 2～3 について 1 作業を共に行い、参加・交流しながら把握する。 2 関わり方やグループダイナミクスについて考える
3 利用者への関わり方を述べられる	1 職員の利用者への関わり 2 通所者間の関わり 3 自分の関わりへの利用者の反応	
4 地域で生活している人のサポートシステムと課題が述べられる	1 利用者が使用している社会資源 1) グループホーム 2) デイケア・ナイトケア 3) セルフヘルプグループ 4) 生活支援センター など 2 地域で生活する人の生活環境 3 サポートシステム 1) 精神科訪問看護 2) 精神保健福祉士・相談員 4 精神保健医療福祉の課題 1) 自立支援医療	行動目標 4 について 1 施設以外の社会資源についても知る。 2 「実習の学びと課題」にまとめる。

[留意事項]

※ 記録物は、病棟・地域と分けて表紙を付けて閉じ、他の施設には持ち歩かない。

[事前学習]

- 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）、障害者総合支援法  
入院形態、処遇の基準、社会復帰に関する施設など
- 施設の設置目的、運営方法、利用者への関わり方
- 主な精神症状と看護  
幻覚妄想、不安、抑うつ、躁状態、意欲減退、不眠、拒絶、攻撃的行動、操作・試し行為、強迫行動、自傷自殺企図、昏迷、認知症の症状、離脱症状"
- 主な治療と看護  
精神療法 薬物療法、作業療法、レクリエーション療法、ECT あるいはm-ECT 療法、SST、認知行動療法
- 再構成の目的・方法
- 実習で受け持つことの多い疾患  
統合失調症・気分障害・パーソナリティ障害・依存症（薬物・アルコール）・発達障害・認知症等
- 他職種との連携、役割

# 在宅看護論実習

## 1 目的

地域で生活しながら療養する人々やその家族を理解し、在宅での看護に必要な基礎的知識、技術、態度を学ぶ

## 2 目標

- 1) 地域で生活しながら療養する人々とその家族の健康状態、生活状況を理解する
- 2) 本人、家族の状況に応じた日常生活援助技術、診療の補助技術の基本を理解する
- 3) 関係機関、職種との連携や社会資源の活用方法を理解する
- 4) 療養生活を支援するために多職種と協働する看護師の役割を理解する

## 3 実習内訳

内容	時間	単位 合計時間
在宅における療養者、家族を対象とした看護（訪問看護）	64 時間	2 単位 90 時間
地域における在宅療養者の看護（高齢者通所施設）	16 時間	
実践活動外学習	10 時間	

### <実習の進め方>

実習前週	実習 1日目	実習 2日目	実習 3日目	実習 4日目	実習 5日目	実習 6日目	実習 7日目	実習 8日目	実習 9日目	実習 10日目	実習 11日目
実践活動外 学習	訪問看護ステーション								高齢者通所施設		実践活動外 学習

### <実践活動外学習の内訳>

項目	目的	内容	時間
フロアオリエンテーション	実習を円滑におこなうために実習概要、内容、各施設の概要を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各実習施設の概要、実習計画</li> <li>・記録、受け持ち療養者の紹介等</li> </ul>	2 時間
在宅および地域における在宅療養支援についてのまとめと考察	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各実習施設の特徴を共有する</li> <li>2 受け持ち療養者と介護者の理解を深め、自己の看護を振り返る</li> <li>3 地域における在宅療養支援を支える在宅ケアチームの各役割と連携方法について理解を深める</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各実習施設の役割、機能、災害対策、多職種連携および継続看護</li> <li>2 受け持ち療養者の事例検討、療養者の生活を支える看護の実際、社会資源の活用、看看連携、ケアマネジメント</li> <li>3 高齢者通所施設における保健・福祉・医療連携</li> <li>4 地域包括ケアシステムと看護師の役割</li> </ol>	8 時間
合 計			10 時間

#### 4 学習の目標・内容・方法

##### 1) 在宅における療養者、家族を対象とした看護（訪問看護）

行動目標	内 容	方 法
<p>1 療養者及び家族の心身の健康状態や生活状況について情報収集ができる</p>	<p>1 療養者の心身の健康状態</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の疾病、症状、身体障害</li> <li>2) 健康障害の種類と段階</li> <li>3) 現在の苦痛、訴え</li> <li>4) 受けている医療の状況</li> <li>5) 対象の発達段階及び発達課題と影響</li> <li>6) 疾病に対する受け止め方</li> </ol> <p>2 日常生活の自立度</p> <p>3 在宅療養の生活状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 在宅療養の経過</li> <li>2) 在宅で療養することの意義</li> <li>3) 1日の過ごし方</li> <li>4) 在宅療養への意欲、意識、価値観や人生観</li> <li>5) 経済状況</li> <li>6) 介護の状況</li> <li>7) 保健医療福祉従事者に期待すること</li> </ol> <p>4 家族の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家族構成</li> <li>2) 療養者と主な介護者、家族との関係</li> <li>3) 職業の有無</li> <li>4) 家族のライフサイクルとライフタスク</li> </ol> <p>5 在宅療養が家族（介護者）に及ぼす影響</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体の状態</li> <li>2) 精神的負担の状態</li> <li>3) 介護者の当面の悩み</li> <li>4) 介護者の負担の軽減 (家族への励ましと健康管理)</li> </ol> <p>6 介護の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護への意欲</li> <li>2) 介護能力（理解力、体力）</li> <li>3) 介護に費やせる時間、経済力</li> <li>4) 介護の工夫</li> <li>5) 家族の介護者への協力状況</li> <li>6) 緊急時の体制</li> </ol> <p>7 提供されている援助内容の把握</p> <p>8 療養環境の把握</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) キーパーソン</li> <li>2) 療養者の家庭内での役割</li> <li>3) 住居の状況</li> <li>4) 生活上の工夫</li> <li>5) 近隣との関係</li> <li>6) 地域の社会的、文化的環境</li> </ol>	<p>行動目標1について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習開始前に疾病や治療、看護について学習する。 * 疾病は現在の療養時期をふまえる。</li> <li>2 訪問予定者の情報収集を行い実習記録用紙に整理する。 1) カルテ 2) 訪問看護スタッフへの質問</li> <li>3 紙面からの情報をもとに療養者と家族をイメージする。</li> <li>4 紙面からでは得られない情報は何かを明確にしておく。 * 訪問時に状態を把握する。</li> <li>5 在宅で療養する意義や意欲、価値観や人生観等については訪問時に療養者や家族（介護者）とのコミュニケーションの中から把握する。 * 何をきっかけに会話をするかを考えて、訪問に臨む。</li> <li>6 対象者の価値観やQOLがどのように尊重され、援助されているかを情報収集する。</li> <li>7 生活上の工夫については、何をどのように工夫しているのか、それはなぜなのかを考える。</li> </ol>

行動目標	内 容	方 法
2 生活状況・社会資源の活用が説明できる	1 生活療養図の作成 1) 受け持ちケースの社会資源について (1) 種類と内容、法的根拠 (2) 関係職種と療養者・家族への関わり (3) 関係機関との連絡調整方法	行動目標 2 について 生活療養図としてまとめ、制度と利用しているサービスを関連づけて考える。
3 療養者及びその家族の心身の健康状態や生活状況をアセスメントし、援助の必要性が説明できる	1 療養者及びその家族の健康状態のアセスメント 2 生活状況・社会資源の活用状況のアセスメント 3 援助の必要性	行動目標 3 について 療養者や家族の持てる力、社会資源の活用状況を含め、情報収集をもとにアセスメントし、援助の方向性を考える。
4 療養者及び家族を対象とした看護活動が計画できる	1 看護目標に沿った看護活動の立案 1) 援助内容及び援助方法の明確化 2) 計画した援助の根拠の明確化 2 計画の視点 1) 対象のもてる力の活用 2) 療養者及び家族（介護者）の状況に応じた直接的な看護及び指導 3) 療養の為の環境調整（必要物品の整備、家族のそれぞれの介護分担） 4) 社会資源の活用についての助言 5) 関係機関、関連職種と在宅療養者とその家族間の調整 3 訪問看護師の援助内容 1) 援助の種類、方法 2) 訪問頻度 3) 他施設の訪問看護師との役割分担 4 訪問援助の必要な理由	行動目標 4 について 1 指導者から訪問対象を確認して必要な情報を収集する。 2 看護活動を立案したら指導者または教員に助言をもらい必要時修正する。
5 立案した看護活動をもとに訪問時の目標・実施内容を計画し、実施できる	1 援助の実施 1) 訪問目的（訪問の必要性）の確認 2) 疾患の経過に応じた観察 3) 日常生活の援助 (1) 清潔—清拭、洗髪、足浴、口腔ケア、寝衣交換 (2) 休息と活動—体位変換、移動、廃用症候群予防の援助、機能訓練 (3) 環境調整—住宅改修 (4) 食事—食事の形態の理解、障害に応じた食事摂取の援助 (5) 排泄—便秘に対する援助、おむつ交換 (6) 安全—誤嚥予防、転倒や転落の予防、器械や器具の消毒 4) 医療処置に伴う援助 経管栄養の管理、留置カテーテルの管理、気管カニューレの管理、中心静脈栄養の	行動目標 5 について 1 計画した援助の中から、スタッフと共に、訪問で実施可能な援助内容を選定する。 2 実施する援助に必要で、訪問対象の家庭に不足していると予測される物品を訪問看護室スタッフと相談のうえ準備する。 3 医療処置に伴う援助は、指導者の指導のもとで行う。 4 自己の感染防止に注意し訪問前後の手洗い、うがいを行う。

行動目標	内 容	方 法
6 訪問援助時の療養者、家族の反応をとらえ行った看護活動を評価できる	管理等 5) 療養相談、療養指導 6) 計画立案及び援助実施時の留意点 (1)介護者の介護方法の尊重 (2)家庭内の物品の利用 (3)介護者の話を聴き家族と共に援助 (4)経済性を考えた援助	行動目標 6 について 1 計画した援助を実施し、援助時の対象や介護者の状態を確認する。 2 訪問終了後、計画した援助が訪問対象や家族（介護者）に効果的であったか評価する。
7 訪問看護師に求められる姿勢、態度について考え実践できる	1 訪問看護時のマナー 1) 約束時間 2) 服装、態度、言葉づかい 3) 家庭内の設備や物品の取り扱い 2 訪問看護師の姿勢 3 守秘義務、プライバシーの保護	行動目標 7 について 1 訪問看護師として望ましい立ち振舞いを考え、訪問時に実施する。 2 訪問終了後、カンファレンスで討議する。
8 ケアマネジメントの必要性とチームケアの重要性が説明できる	1 看護師によるケアマネジメントの実際 1) 対象者 2) アセスメントの内容 3) 連携をとる関係機関、職種 4) 関係機関、関係職種との連絡、調整方法	行動目標 8 について 1 訪問事例を通して、ケアマネジメントの実際を理解する。 2 受け持ち事例に関する地域ケア会議や事例検討会など機会があれば参加する。
9 訪問看護師の役割と継続看護の必要性について説明できる	1 継続看護の実際 1) 入院、退院、施設利用など、療養の場の移行に伴う看護の連携手段 2) 訪問対象者に行われている看護の連携方法 3) 継続看護の効果 2 実習場所の地域特性 3 地域における訪問看護師の役割	行動目標 9 について 1 実習をとおして関係機関との連絡方法、連絡ノート等の有無を把握する。 2 実習で学習したことを基に、考察する。
10 訪問看護を実施する施設の機能、役割が説明できる	1 訪問看護ステーションの概要 1) 理念・設置主体 2) 職員構成 3) 訪問看護の援助内容 4) 他機関との連携 5) 災害時の対応	行動目標 10 について 実践活動時間外学習において訪問看護の学び、実習施設の特徴の学びを発表し、共有する。

## 2) 地域における在宅療養者の看護（高齢者通所施設）

行動目標	内 容	方 法
1 高齢者通所施設の概要とその役割を説明できる	1 施設の概要について 1) 設置される根拠となる法律 2) 施設の目的 3) 施設の役割 4) 施設の機能 5) 施設及び設備の特徴 6) 管理者と構成員、経営管理方法 2 高齢者と家族における通所施設の意義 3 通所施設の活動内容と方法	行動目標 1 について 施設でのオリエンテーションや活動に参加する。
2 通所施設における保健・福祉・医療連携について説明できる	1 利用者を取り巻く職種とその役割、連携の取り方 2 家族との関わり、連絡方法 3 利用者同士の関係性	行動目標 2 について オリエンテーションで説明を受け、積極的に質問する。
3 利用者に合わせた援助の実際と看護師の役割を説明できる	1 健康状態の把握 2 日常生活援助 3 運動機能訓練 4 レクリエーション・アクティビティケア 5 介護相談や介護予防に対する支援 6 安全対策（転倒防止、感染予防）、緊急時の対処 7 多職種連携 様々な職種との情報共有と教育的関わり（身体のアセスメント・医療処置など）	行動目標 3 について バイタルサイン測定、食事介助、排泄介助、レクリエーションなどへの参加や見学および一部実施を通して看護師の役割を共有する。
4 地域における在宅療養支援について考察できる	1 通所サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス、地域支援事業についての意義	行動目標 4 について 日々のカンファレンスや最終カンファレンスで学びを共有する。

## 5 実習の技術に関する規定

必ず指導者の指導のもとで実施すべき援助
1 日常生活の援助
1) 移動・移送
2) 食事介助
3) 排泄
4) 清潔・衣生活
2 医療処置に伴う援助
1) 経管栄養の管理、指導
2) 膀胱留置カテーテルの管理、指導
3) <u>膀胱洗浄（原則として見学）</u>
4) 在宅酸素療法の管理、指導
5) 吸引
6) 気管カニューレの管理、指導
7) 人工呼吸器の管理、指導
8) 創傷のドレッシング(褥創処置も含む)
9) ストマの管理
10) 中心静脈栄養の管理、指導
11) 服薬の管理
12) 関節可動域（ROM）訓練
13) 肺理学療法
14) <u>グリセリン浣腸、摘便（原則として見学）</u>
3 療養者本人及び家族(介護者)への指導

※上記以外の援助については、教員、指導者に相談し決定する。

## 6 事前に学習する項目

### 1) 在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護（訪問看護）

- (1) 保健・医療・福祉の社会資源(関係機関、関係職種、サービス内容、連携方法) 関係する法律、関連施策(介護保険法、老人保健法、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、難病対策、児童福祉法、精神障害者保健福祉法等) 参考資料；社会福祉の手引き、国民衛生の動向ほか
- (2) 在宅看護の必要性・目的・目標
- (3) 訪問予定者の疾患、看護、観察の視点
- (4) 訪問予定者が実施している治療、医療処置、日常生活援助について
- (5) 在宅ターミナル期の援助（疼痛緩和含む）
- (6) 「実習の技術に関する規定」に記載されている技術
- (7) 訪問に臨む看護師の態度、マナーについて

### 2) 地域における在宅療養者の看護（高齢者通所施設）

- (1) 高齢者通所施設（デイケア・デイサービス）・介護老人福祉施設・介護老人保健施設を規定している法律、設置目的、役割、事業内容、職種
- (2) 高齢者通所施設（デイケア・デイサービス）・介護老人福祉施設・介護老人保健施設における看護師の役割と機能
- (3) 高齢者通所施設（デイケア・デイサービス）・介護老人福祉施設・介護老人保健施設における多職種の種類、各職種の役割と機能

## 7 その他

### 1) 在宅看護論実習全般の留意事項

#### (1) 看護学習記録について

複数の施設で実習するため、

< 在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護（訪問看護）>

< 地域における在宅療養者の看護（高齢者通所施設）>

該当するタイトルの表紙に（○）をつけ、2冊に分けて綴じる。

他の施設には絶対に持ち歩かない。

使用する学習記録は、見本を参考にして各自がオリエンテーションまでに準備する。

実習終了後に担当教員の提出BOXに提出する。

#### (2) 実習方法

① 各施設のスケジュールや諸注意については、実習初日に指導者からオリエンテーションを受ける。

② カンファレンスは学生中心で毎日行う。

#### (3) 出欠席の管理

##### ① 遅刻・欠席の場合

本人：実習場所に実習開始15分前までに連絡する。

リーダー：遅刻・欠席者がいた場合は、昼休みに学校に連絡する。

② 実習施設ごとに週末、実習出席簿に署名・捺印を頂く。

### 2) < 在宅で療養している療養者、家族を対象とした看護（訪問看護）>について

#### (1) 実習方法

① 訪問看護の対象の疾患や治療、処置、日常生活援助について、必要な事前学習が不十分な場合は、家庭訪問は実施できない。

#### (2) 留意事項

##### ① 服装・身だしなみ 他

訪問看護ステーションで実習する場合

薄い色のポロシャツ、日常生活援助ができるようなスラックス、靴下(色つき)

エプロン(必要時に使用できるよう準備)、名札、ハンドタオル、

私物をまとめて持参するバック、

② 各実習施設のファイルの留意事項を熟読して実習に臨む。

### 3) < 地域における在宅療養者の看護（高齢者通所施設）>

#### (1) 実習方法

① 実習する施設ごとに開始時間を確認する。

② 事前に実習する施設のファイルを受け取り、実習内容、方法について理解して実習に臨む。

#### (2) 服装等

実習施設によりユニフォームか、訪問看護ステーションでの服装に準ずる。

# 看護の統合実習

## 1 目的

看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受持を通して知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける

## 2 目標

- 1) 看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める
- 2) 夜間の患者・看護師の状況を知ることにより患者の総合的な理解と必要な看護について理解を深める
- 3) 複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践する
- 4) 既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高める
- 5) これまでの学習を振り返り、将来の看護師としての自己の課題を明確にする

## 3 実習内訳

内容	時間	単位 合計時間
臨地実習	78 時間	2 単位 90 時間
実践活動外学習	12 時間	

### <実践活動外学習の内訳>

項目	目的	内容	時間
全体オリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解し、実習施設や患者情報を知る	統合実習の目的、目標、実習内訳 時間数、行動目標、内容、実習方法、 評価、学習記録	3 時間
フロアオリエンテーション		病棟の概要、特徴、物品配置	2 時間
統合実習に向けた準備と学習	実習を円滑に進めるための知識と技術を確認する	実習する病院における看護管理、病棟管理、リーダーシップ・メンバーシップ 複数患者の看護に向けて講義内容および校内実習、技術の復習	4 時間
実習の振り返りとまとめ	実習の学びを共有し自己課題を明確にする	看護管理の実際と保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能 患者の総合的理解と必要な看護 複数患者の看護における優先順位と時間管理 既習の知識・技術・態度の統合と看護実践力の向上 将来の看護師としての自己の課題	3 時間
合 計			12 時間

#### 4 学習の目標・内容・方法

行動目標	内 容	方 法
1 看護管理の実際を理解できる	1 病院組織における看護管理 1) 看護部門の組織 2) 組織の職務と職務規定 3) 看護理念 4) 看護方式 2 医療サービス評価 1) 病院機能評価 3 看護師長の役割と業務 1) 病床管理 2) 人事管理 3) 業務管理 4) 情報管理 5) 職員教育・新人教育・学生指導 6) 安全管理	行動目標 1 について 1 看護管理について事前に学習し、看護部長から実習する病院の看護管理についての講義を受け学んだことを記録用紙にまとめる。 2 看護師長より病棟の管理業務についてオリエンテーションを受ける。看護師長のシャドウイングを行い、病棟管理業務の実際について学びを記録用紙にまとめる。
2 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップについて理解し、看護活動の実際を理解できる	1 リーダーシップ及びメンバーシップの役割 1) チーム全体の患者把握 2) チームメンバーへの連絡 3) 看護援助の進行状況の把握と調整 4) 援助の必要性や優先順位 5) 援助の時間配分、援助の調整方法 6) チーム内の状況に合わせた協力要請 7) チームメンバーとして情報共有 8) 管理者への報告や他チームとの情報伝達 9) 他部門との連絡調整	行動目標 2 について 1 看護師のシャドウイングを行う。シャドウした看護師から複数受け持ちの際の優先順位や時間配分について助言を得る。
3 夜間実習の体験を通し、対象者の理解、看護師の役割や業務について理解できる	1 夜間時間の患者の状態・反応 2 面会時の患者の反応 3 夜間の患者心理 4 睡眠状況と覚醒状況 5 夜間の日常生活援助 1) 配膳、下膳、食事の介助・観察 2) イブニングケア 3) 患者の就寝準備、状態観察 6 夜間の検査、処置、与薬など 7 夜勤帯の業務内容の理解 1) 病棟管理体制 2) 看護業務の内容 3) 夜間の安全管理	行動目標 3 について 1 夜間実習オリエンテーションを受ける。 2 夜勤への申し送りに参加する。 3 看護師のシャドウイングを行う。 4 夜間実習での学びは記録用紙にまとめる。
4 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解し看護を実践できる	1 患者の理解 1) 受け持ち患者 2 名の理解 (1) 日常生活の状態 (2) 病情的状態 (3) 実施されている治療・処置 (4) 実施されている看護	行動目標 4 について 1 2 名の患者を受け持つ。 2 受け持ち患者の情報を収集し病状、患者に行われている治療や看護についての根拠や、必要性についてアセスメントする。

行動目標	内 容	方 法
<p>5 実習を振り返り、看護師としての自己の課題を明確にできる</p>	<p>2 看護の実践</p> <p>1) 複数患者の援助の優先順位と時間配分</p> <p>(1) 病状変化、治療方針変更に伴う援助実施の可否・優先度の判断</p> <p>(2) 予定されている検査、処置の時間確認</p> <p>(3) 援助実施の調整</p> <p>(4) 適切な時間での実施</p> <p>(5) 援助の評価</p> <p>(6) 適時、適切な人への報告</p> <p>1 看護管理の実際と保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能</p> <p>2 患者の総合的理解と必要な看護 複数患者の看護における優先順位と時間管理</p> <p>3 既習の知識・技術・態度の統合と看護実践力の向上</p> <p>4 将来の看護師としての自己の課題</p>	<p>3 病棟の計画を基に援助計画を立案し2名の患者に援助を実施する。</p> <p>4 担当看護師に援助計画について事前に報告、相談して、時間配分や妥当性について助言を受ける。</p> <p>5 必要に応じて計画を修正し実施する。</p> <p>6 診療の補助技術については看護師の指導下で行う。</p> <p>1) 受け持ち患者やチームの患者に実施される診療の補助技術について、目的・方法・留意点を事前学習する。</p> <p>2) 受け持ち患者やチームの患者に実施されている診療の補助技術を見学する。</p> <p>3) 実施可能と判断された場合に実施する。</p> <p>4) 実施後に観察を行い、結果を報告する。</p> <p>行動目標 5 について</p> <p>1 日々のカンファレンスで意見交換を行い学びや気づきを共有する。</p> <p>2 実習を通して全体の学び・課題を記録にまとめ、実践活動外学習で共有する。</p>

## 5 カンファレンステーマ

- 1) 組織における看護管理と病棟の安全管理
- 2) 病棟管理とリーダーシップ・メンバーシップ
- 3) 効果的な複数患者の情報収集
- 4) 援助の時間配分と調整
- 5) 援助の優先度とその判断
- 6) チームでの協働と看護スタッフとしての行動
- 7) 看護実践と評価
- 8) 夜間実習で学んだこと
- 9) 統合実習での学び

## 6 事前学習

1) 以下の内容について、授業資料を活用してまとめておく。

### (1) 看護管理

- ① 看護部門の組織
- ② 看護基準、看護手順
- ③ 看護ケア提供システムと看護単位
- ④ 人事管理
- ⑤ 業務管理
- ⑥ 情報管理
- ⑦ 職員教育・新人教育・学生指導
- ⑧ 安全管理とリスクマネジメント
- ⑨ 病院機能評価

### (2) リーダーシップとメンバーシップ

2) 実習する病院の看護管理について調べておく。

3) 複数患者受け持ちに向けて、授業及び校内実習の資料をまとめておく。

4) 既習の知識・技術・態度を想起し、看護実践力の向上に向けた課題を明確にしておく。